

**オムロン株式会社 2012年度 第3四半期決算  
投資家様向け説明会 質疑応答  
(2013年1月30日、東京)**

◆ 全社関連

Q: 通期見通しを変更しないことについて。売上の達成確度は低いのではないか。

A: 見通し数値作成のプロセスとして、社内で数値を積上げて算出している。IAB、EMCは厳しいが、他の事業セグメントでカバーし、全体では円安効果も含めて前回見通しを据え置いている。

Q: FY13で減益となる可能性があるセグメントはあるか。

A: 現時点でFY13の計画は言及できない。FY12で特殊要因によって大きく売上が増加しているセグメントはないので、FY13で急激に減益になるセグメントはないと考えている。

◆ IAB 関連

Q: 地域別の3Q実績の状況は。

A: 特に自動車業界を中心に国内が厳しい状況が続いている。アジアは自動車関連好調。

Q: IAB全体として事業環境はいつ頃回復すると見ているか。

A: 少なくとも来年度の1Qまでは今の状況が続くと見ている。夏場以降の回復を期待している。

Q: OCとマイクロソフトとの提携効果の見込みは。

A: FAの高速・高精度にはデータ管理が重要。上位DBとコントローラとの接続をPC抜きで行える。提携で狙う市場は大きいと考えている。今後もIA強化のためのアライアンスやM&Aを検討を続ける。

Q: IABの4Qと来期に回復する見込みは。

A: 季節要因に加え、国内のキャンペーン、欧州の高機能PLCの販促などにより4Qが3Qよりも売上増加を見込む。円安もプラスに働く。国内は足元の事業環境は厳しいが、海外でカバーしたい。

◆ AEC 関連

Q: 2015年の売上規模をどの程度想定しているか。

A: 明確には言えないが、現在の売上規模より2割強増加すると見ている。

Q: 日中関係の影響はどの程度か。

A: 3Q時点での影響は約16億円。現在は落ち着いてきていると認識している。

◆ HCB 関連

Q: ヘルスケアが3Q営業利益および利益率が好調だった背景は。

A: 売上の伸びに加え、収益構造改革が寄与。ユーロ安の好影響もあった。

◆ その他事業関連

Q: 営業利益の4Q見通しは。

A: 3Q実績はバックライトとパワコンが好調。4Qはバックライトが弱含むと見ている。

\*\*\*\*\*